

she said,

いろんな切り口で交流を図って 顔見知りや繋がりがしっかりある 「この街大好き」な心を育てたい



4人の個性がバラバラなのが逆に
よくて、いろんなアイデアが生ま
れ出すと語る森下さん

発端はメンバーの一人、末吉真由華さんが主催する甘酒料理教室。参加した森下奈緒さん、大内美生さん、片桐美貴子さん、そして末吉さんたち4人はほぼ初対面であったが、「南町田って地域の情報が少ないよね」「地域の繋がりがもっと欲しいよね」と意気投合。「何かやろうよ」と、プロジェクトを立ち上げるようになった。

4人に共通するのは、もともと町田在住でなく、結婚して数年前に引っ越してきたこと。小さいお子さんがいて仕事もしている。だから「その思いもある」。

「地域の繋がりに」といえば町内会。自治会もあるが、個々の生活サイクルも違い、新しく移り住み会員でない人もいる。一方、町内会で役員も経験した片桐さんには「地域

に魅力的な人が多くいる」という実感もあった。そこで「昔から住む人も新しい人も関われるいろんな切り口のイベントで交流を生み出せたら」と考え、活動の柱を次のように決めた。

①面白い活動をしている人たちやお店を掘り起こして紹介する。
②「この街大好き」と思えるような新しいイベントを、みんなを巻き込んで作っていく。この2本柱で、プロジェクトは3年計画だ。2018年、まず地域イベントへの参加を通して活動内容をPRし、地域交流を開始。2019年には、南町田グランベリーパークのまちびらきに合せて、南地域のエリアマップや通信を発行する。2020年には集大成として駅周辺エリアで「みなみまちだパークフェス」を開催したいと考えている。

初年度の2018年は、7月に地域イベント「南カフェ」に出席。地域の人たちの口コミで、「この街の素敵なスポット情報」を募り、みんなで作る「わくわくMAP」を完成させた。「ドリームBOX」では「この街でどんなことを実現したいか」という声を集めた。一番多かったのは「年齢に関係なく、みんなが声をかけ合える多世代交流がしたい」という内容だった。

取材の日も「まちあるき」イベントをやってきました」と声を揃える4人のママ友。彼女たちが2018年2月に結成したのが「まちだ南地域魅力発見プロジェクト実行委員会」。略して「みなまちプロジェクト」。「まちだ〇こと大作戦」にもエントリーする、独自の地域おこしプロジェクトだ。

2019年3月には、掘り起こした「特技の持ち主や素敵なお店を集めて「みなまちミニマーケット」を開催。10月末にはエリアMAPが目玉の「みなまち通信」をついに創刊。今後も号を重ね、まちだ南地域の独自のエリア情報を発信していく予定だ。

面白そうなスポットを実際にみんなまで歩こうと始めた「まちあるき」も回を重ねている。2回目の「ハロウィンまちあるき」では、子どもたちがお店や高齢者施設をまわり、地域の大人と交流。そこには「顔見知りを増やし、防犯にも繋がるように」という思いも込められている。

アイデアを出し合って活動を広げつつも、4人で守っていることがある。それは「4人で1人。家族優先で、無理はしない」というスタンス。お互いを尊重し、意見が違っても本音で話し合える関係だ。2020年はいよいよ集大成。地域の人たちと協力してパークフェスの実現に向かう。より魅力的な街づくりに向け、どんなイベントになるのか、大いに期待が膨らむところだ。



左) まちあるきvol4では小川地区の話題のパン屋さんでランチを楽しんだ 中) 仮装した子どもたちがスタンプラリー形式で協力店をまわるハロウィンまちあるき 右) 南町田グランベリーパークの「まちのがっこう祭」でも、わくわくMAPやドリームBOXを設置し、みなまち通信を配布。右ページは左から、森下さん、大内さん、末吉さん、片桐さん。活動拠点としているコワーキング喫茶「cosoadot」には口コミ情報を募集する私書箱も設置している

THE まち人

MACHIBITO file 030

地域に
生きる

ママ友たちが意気投合。
町田市南地域の魅力発見と
人と人が繋がる街づくりを
まちだ南地域魅力発見プロジェクト



まちだ南地域魅力発見プロジェクト
<https://www.facebook.com/machidanominami/>